

2024年7月5日

内閣総理大臣 岸田文雄 様
文部科学大臣 盛山正仁 様
外務大臣 上川陽子 様
厚生労働大臣 武見敬三 様

強制動員真相究明ネットワーク

佐渡鉱山「半島労務者名簿」、浮島丸「乗船者名簿」などの 強制動員関係名簿の公開と韓国政府への提供を求める要請書

1990年に韓国・盧泰愚大統領が訪日した際、日本政府に朝鮮人強制連行者の名簿提供を要請しました。これに対し日本政府は1991年から1993年にかけて30万人を超える労務や軍務での朝鮮人名簿を提供しました。これらの資料は韓国での強制動員被害実態調査の基礎資料となりました。日本でも自治体史での歴史分析などに活用され、市民の歴史理解を高める資料となりました。その後、厚生労働省が保管していた軍人軍属名簿などの資料は国立公文書館に移管され、公開がすすめられています。このような資料の保存と公開、その公正な利用は民主主義の基礎です。

わたしたちは昨年4月、新潟県立文書館が1983年の県史編さん事業による三菱佐渡鉱山「半島労務者名簿」（マイクロ資料）を保管していることを確認し、その公開を佐渡鉱山の継承企業であるゴールデン佐渡に求めました。しかしその後、県立文書館は資料の存在を認めたことをゴールデン佐渡に謝罪し、その存否自体を示さなくなりました。80年前の貴重な資料を保存し公開する方向で議論を進めるのではなく、資料の存在自体を隠すようになったのです。県立文書館が何らかの圧力に屈したと疑わざるを得ません。このような歴史資料の非公開処理の状況は克服されるべきです。日本政府は県立文書館の朝鮮人名簿を収集し、公開処理を進め、韓国政府にも提供すべきです。

今年になって浮島丸事件関連の「乗船者名簿」の存在が明らかになりました。しかし公表された資料では名簿と住所の欄などは隠され、企業名も消されていました。乗船者のほとんどが大湊海軍施設部、海軍施設部協力会の地崎組などの土建会社、日本通運大湊支店に連行された朝鮮人です。すでに死亡者名、住所、企業名は京都の市民団体が発刊した『浮島丸事件の記録』（1989年）で公開されています。また海軍軍属であった朝鮮人の身上調査表は93年に日本政府から韓国政府に提供されています。日本の公文書館にも大湊海軍施設部の資料は公開を前提に所蔵されています。1945年の時点で大湊海軍施設部は遺族に深甚なる弔慰を示し、遺族への伝達、戸籍からの抹消を依頼しましたが、現在の日本政府の対応はそれ以下です。日本政府が80年ほど前の乗船者名簿をマスクする行為は人道に反するものです。浮島丸事件関係者にとって乗船者名簿は故人の存在を示す大切な歴史的資料です。乗船者名簿は全面公開すべきです。

近年、朝鮮人強制労働の歴史を否定する活動が目立つようになりました。群馬県知事はヘイト集団の意向を受けて県立公園の朝鮮人追悼碑を撤去しました。日本政府はこのような歴史否定の動きに同調してはなりません。イコモスは「佐渡金山」に関する2024年の勧告で「鉱業採掘が行われていたすべての時期を通じた推薦資産に関する全体の歴史を現場レベルで包括的に扱う説明・展示戦略を策定し、施設・設備等を整えること」を求めています。イコモスのいう「全体の歴史」には佐渡鉱山での朝鮮人強制労働の歴史が含まれます。新潟県立文書館が所蔵している名簿は佐渡鉱山の「全体の歴史」の記述に欠くことのできない資料です。世界遺産登録をすすめるのならば、日本政府は佐渡鉱山での朝鮮人強制労働を認め、それに関する資料を公開すべきです。

1990年代初め、韓国政府に朝鮮人名簿を提供したように、日本政府が佐渡鉱山などの強制動員関係名簿の公開をすすめ、韓国政府に名簿を提供することを要請します。

連絡先 神戸市灘区八幡町4-9-22 神戸学生青年センター気付
強制動員真相究明ネットワーク
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019
E-mail shinsoukyumei@gmail.com